

つばさ

～男女が支えあい、いきいきと暮らせるまちをめざして～

歴史を拓いた津の女性たち
山高 しげり



三重大学人文学部 准教授
石阪 督規さん



あむあむ
ネットワーク
津市食生活改善推進協議会
(津市ヘルスマイト)

Illustration by デビ☆プロ Designed by リオジ



- 【内容】
- ◇歴史を拓いた津の女性たち 第1回 山高 しげり
 - ◇三重県内男女共同参画連携映画祭2011
 - ◇まちを元気にする男女（なかま）たち
～第8回：三重大学人文学部 准教授 石阪 督規さん～
 - ◇あむあむネットワーク 第2回
 - ◇父親を楽しもう！！
 - ◇津市ヘルスマイトおすすめ簡単レシピ紹介

NO. 11

2011.10

『つばさ』

「誰もが自由な心で生きられる社会を思い、男女共同参画社会の実現に向かって飛躍していきたい」という願いを込め、その力となる「翼＝つばさ」を象徴しています。

津市

◆ つばさ各号は、下記のホームページで閲覧できます。

<http://www.info.city.tsu.mie.jp/modules/danjokyodosankakushitsu/article.php?articleid=1>

婦人の自立をめざした

山高しげり

1899(明治32)年～1977(昭和52)年

やまたか

山高しげり略年表(戦前編)

明治

1899年 津市に誕生。山高幾之丞(三重県師範学校校長)・とみ(元教員)の二女。

1902年 東京へ転居。03年前橋市へ。

1908年 父死去。母桐生高等女学校教師となり同市へ転居。

1909年 四日市市へ転居。11年母勤務の四日市高等女学校入学。

1913年 東京へ転居。

1914年 雑誌「少女の友」に投稿開始。

ペンネームは茂里子。

大正

1916年 東京女高師入学。18年退学。

1919年 金子従次と結婚。

1920年 欣太郎を出産。国民新聞社入社(～24年)。

1923年 東京連合婦人会結成に参加。

1924年 主婦之友社入社(～25年)。婦人参政権獲得期成同盟会(後の婦選獲得同盟)結成に参加、中央委員となる。

1931年 第2回婦選大会懇談会で「婦選は鍵なり」の舞台劇を制作上演。

1933年 東京婦人市政浄化連盟結成。協議離婚。女性初の帝国議会記者席獲得。

昭和

1934年 山田わからと母性保護法制定促進婦人連盟(後の母性保護連盟)結成。

1935年 東京朝日新聞に「女性と議会」連載(全54回)。東京市「清掃思想普及事務」嘱託の辞令(女性初)。

1937年 母子ホーム開設運動により東京市営「恵和母子寮」開所。

1939年 婦人時局研究会結成、理事に。

1942年 大日本婦人会結成、理事に。

1943年 大日本言論報国会会員となり、以後各地で講演。

「つばさ」No.8で、「津市が生んだ日本で女性2番目の医学博士・井出ひろ」を紹介しました。津市には彼女以外にも、日本や地域の礎となった女性がたくさんいます。今号からこれをシリーズ化し、現代の私たちが忘れかけていた、津市の女性の歴史を掘り起こします。

第1回は山高しげり。婦人参政権や、母子福祉、婦人会の全国組織の基礎を作った女性ですが、津市出身ということを知る人は少ないようです。彼女がどんな道を歩んできたのか、たどってみましょう。

山高しげりとその母

山高しげりは、1899年津市に生まれました。母は旧姓吉田とみ。藤堂藩士の娘で、三重県師範学校初の女子入学生3名のうちの1人です。東京女子師範卒業後、母校の教員となりますが、同僚の山高幾之丞と出会い結婚、家庭に入ります。

一家は父の赴任に伴い転居を続けますが、しげり9歳の時、父が死去。残された一男三女を抱え、母は44歳で教壇に戻ります。この母の再出発が、後にしげりを母子福祉や婦人の自立に向かわせる原動力となるのです。

母もまた各地の高等女学校に赴任。1909年には四日市に転居。11年、しげりは母勤務の四日市高等女学校に入学し、14歳で東京に転居するまで、少女時代を過ごすことになります。

三重県内男女共同参画連携映画祭2011

「カンフーパンダ」を上映しました!

毎年6月23日～29日は「男女共同参画週間」です。この期間に合わせ、県内の男女共同参画センターや市町が連携して「三重県内男女共同参画連携映画祭」を開催しており、津市では、6月25日(土)河芸公民館において、「カンフーパンダ」を上映しました。➤

山高しげり略年表(戦後編)

1945年 8月25日、市川房枝らと戦後対策婦人委員会結成。11月、新日本婦人同盟(後の日本婦人有権者同盟)結成。

1948年 東京都地域婦人団体協議会結成、初代会長。欣太郎死去。

1950年 全国未亡人団体協議会(全未協)設立、初代事務局長。

1952年 全国地域婦人団体連絡協議会(全地婦連)設立、初代会長。

1953年 母子福祉貸付資金獲得。「全未の家」設立。

1955年 第1回原水爆禁止世界大会参加。母親たちの映画プロダクション「桜映画社」創立、取締役社長。

1960年 全未協「お母さん貯金旅行」始まる。

1962年 7月参院選全国区次点落選、9月繰上当選3年議員に(以後議員9年)。

1964年 母子福祉法成立。

1968年 全地婦連100円化粧品「ちふれ」頒布販売。ラベル文字「ちふれ」はしげりの筆による。

1971年 (財)全国婦人会館建設、初代理事長。

1977年 『母子福祉四十年』出版。急性腎不全のため死去、78歳。

山高しげりと議会



文学少女だったしげりは、結婚・出産後、新聞・雑誌記者となります。34歳横浜貿易新聞東京特置記者の時、女性初の帝国議会記者席を獲得します。そして1935年1月から3か月にわたって、東京朝日新聞に「女性と議会」を連載します。婦選運動・禁酒運動・助産師法案・母性保護など、従来書かれることのなかった女性の視点で国会をレポートしました。また女性傍聴者の多さについても何度も伝えています。

この記者活動と並行して、市川房枝・山田わからとともに、婦選運動・母性保護運動の中心として、婦人の自立めざして活躍を続けました。

2つの団体を率いて

戦後しげりは、全国未亡人団体協議会と全国地域婦人団体連絡協議会の2つの団体を設立し、女性の自立・地位向上をめざしました。組織についてしげりは、よくおむすびに例えた話をしています。「1粒1粒のご飯粒が落ちていても力にならない。けれどもそのご飯粒が団結

すると、力も出てくるし粘りも出てくる」と。

国会に対し、積極的に請願・署名・陳情運動等を展開。ついにはしげり自身を参議院議員に送り出し、母子福祉法等を実現させました。



「自分を信じる」ことで、自分の能力や個性を発揮できる、自分にあったステキな生き方を見つけていくキャラクターから、性別に関係なく、みんなが自分の能力や個性を発揮できる「男女共同参画」について関心を持っていただければと思います。

三重県内男女共同参画連携映画祭 2011

6/25(土)

ポスター上映 映画「カニバ」(12時、13時、14時、15時、16時、17時、18時、19時、20時、21時、22時、23時、24時)

会場 河原公民館 大ホール

「自分を信じる」ことの大切さがわかる物語

わあむ津実行委員会始動

今年度も津市男女共同参画フォーラム「わあむ津」が、2月11日(祝)リージョンプラザにて開催予定です。今年度実行委員はただいま24名。例年の活動に加え今年は、

「男女共同参画社会の実現に向けて」のテーマで3回連続の研修会を持ち、当日に臨みます。



まちを元気にする男女(なかま)たち

第8回

石阪督規さん

(三重大学人文学部 准教授)

いし ざか とく の り



2011年6月30日 津市役所にて

～男女共同参画は世代間の 交流・相互理解が鍵～

シリーズ8回目は初めての男性登場です。石阪さんは現在、三重大学人文学部准教授で、男女共同参画、若者就業支援、NPO支援や地域づくりなど、多方面で活躍されています。

ユーモアを交えながらも、今日の男女共同参画の問題点を次々と指摘されました。子育てに関しては「育児は本当に短い期間。せっかくのチャンスなのに私もかかわらなくっちゃもったいない」と、ご自身の体験をもとに笑顔で話されました。これには同席した男女共同参画室の男性職員も、思わず「僕も」と身を乗り出すなど、楽しいインタビューとなりました。

男女共同参画との出会いを教えてください。

私は、地域づくり、まちづくり、人口減の山村再生などの地域を元気にする方策を研究テーマにしています。それが2002年、伊勢市から男女共同参画審議会会長を依頼されました。もともと男女共同参画というと男性や若年層の参画が少ないことが、選ばれる理由の一つに思ったと思います。そこで「伊勢を元気にしたい」という思いで、れいんぼうプランの策定に関わりました。以後、伊勢市を皮切りに亀山市、いなべ市、桑名市などから依頼が相次ぎ、それぞれ男女共同参画審議会の会長などを務めさせていただきました。津市では、男女共同参画フォーラム「わあむ津」でのシンポジウムを、2年続けてコーディネートしたほか、津市職員の研修や、元気づくり事業などにかかわってきました。

地域での男女共同参画は、どう進めたらよいのでしょうか。

よく思うのですが、机上で議論しているより、まず市民も行政も一緒になって地域へ出て行くことが重要ですね。亀山市がいい例ですが、行政と市民が協働で企業懇談会を開催しています。市民ワーク・ショップなども積極的に行っています。それができるのが市民の力です。今後一層、市民が行政と一緒に活動していけるようなしくみづくりが大切ですね。

この10年の成果は、津市のフォーラム「わあむ津」のように、なんといっても市民と行政の協働が進んだことです。官と民が一緒になって取り組みをする、対等に議論ができるようになりました。行政組織の面では、一部署だけで、男女共同参画をやるのではなく、各部署を「横串で刺す」という意気込みを持って、あらゆる部署で情熱を持って取り組んでほしいです。また、男女共同参画の施策を進める上では、特にトップや管理職の方の意向が大きいので、そういう立場にある方はきちんと研修を受けていただいて、男女共同参画の発想を持ち、意識改革をしてほしいと思います。

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を進めるにはどうしたらよいですか。

日本社会でワーク・ライフ・バランスが進まない理由はいくつか考えられます。まず、女性の社会参加が進む中で、働き方や子育ての問題などの社会基盤は改善されつつありますが、今なお不備であるということです。これは職場や家庭、地域において、男女の固定的な役割分担意識が残っているということです。また、企業中心の働き方（長時間労働、頻繁な配置転換・転勤など）が根強いことです。今でも労働時間が長いほど優秀な社員だという風潮はありますが、実は労働は効率の問題であって、命をすり減らしてまで長時間働くことはない、みんながそこそこ働いて、そこそこ地域や家庭のことをする生き方に変えていく必要があります。

ワーク・ライフ・バランスの導入は企業にとっては一時的に労務管理システムの見直しなどコストの上昇をもたらしますが、反面、残業代の経費の削減や優秀な人材を確保できる、社員の満足度や、仕事への意欲の向上などの効果が期待できます。また民間企業ではこの制度の運用はトップや管理職の意向が強いので、その世代の意識改革が必要ですね。企業がマネジメントや仕事の方法を見直すという基本的な問題の解決なしには、ワーク・ライフ・バランスの浸透は考えられません。

「育児は限られた瞬間しかかかわれない、自分の人生にとっても大切な時間です。それにかかわらないのはもったいないことだな。」（2児のパパとして）



今の若者の生き方・考え方について、教えてください。

今、学生の間では公務員・教員志望がとて増えています。その反面、3割の女子学生が、結婚願望、夫に養ってほしい願望を持っているのも事実です。こういう選択は予期せぬ離婚や、男性が働けなくなったときにどうするのか、というリスクに直結します。こうしたリスクをふまえて、若者自らが、自分にあった「幸せのかたち」をデザインしていくことが求められます。

一方、非正規雇用の若者に目を向けると、彼らは上の世代から「就職できないのは能力がないから、努力しないからだ」と非難されています。今の若者の特性を挙げると、まず労働に関して消極的なこと。これは上の世代とは全く違う感覚です。どちらかといえば、楽して生きたい、今食べられればそれでいい、自分の好きなことを大切にしたい、異性に対しても執着しないし、結婚して子どもを持つよりは、自分の消費に向きたいという若者が増えています。

これは無理のないことです。若者に夢や希望を持てといっても、今の苦勞が将来に渡って報われないであろうということが一番知っているのは彼らです。そんな状況の下では若者は無駄な努力を避け、じっとして自分の人生を守っているのです。

男女共同参画のめざす目標はなんですか。

男女共同参画の問題は突き詰めれば、世代間の交流・相互理解が鍵ではないかと思います。世代間での話し合いが大切です。

男女共同参画のめざすべき目標は、老若男女それぞれが一人で生きる力を持つこと、経済的にも社会的にも個として自立することだと思います。今までは男と女が依存しあいながら日本社会を作り上げてきたわけですが、これからは男女の役割にこだわるよりも、仮に一人になっても生きていける力を身につけること、労働、家事、その他身の回りのことを自分でできる力をもつということが、男女共同参画社会の最終目標につながると思います。

あむあむネットワーク

第2回

地域住民の健康増進に取り組んでいる「津市食生活改善推進協議会（愛称：ヘルスメイト）」を紹介します。

津市食生活改善推進協議会は、平成18年の市町村合併に伴い、10地域の各団体が「津市食生活改善推進協議会」としてひとつになりました。合併当初は各地域の活動内容に戸惑うこともありましたが、現在は10支部456名の会員がひとつの輪となり、「私達の健康は私達の手で」というスローガンのもとに活動しています。地域住民に対して、毎日の食事や運動に気を付けて、健康に過ごしていただくという、健康づくりのボランティア組織として、食生活改善のお手伝いをしています。



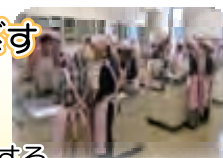
ヘルスメイトの役割

- 健康づくりの案内役（啓発と普及）
- 行政との連携…パイプ役
- 地域住民との交流・健康づくりへの支援



楽しい組織活動をめざす

- 会員としての満足向上をめざす
- 自分の活動を実感できるようにする
- 行政との協働…会員研修や組織運営など



活躍している支部長の声です。
～一緒に活動しませんか～

（連絡先）中央保健センター ☎ 059-229-3164

支部名	支部長の声
津	ヘルシークッキングを実施した後は、おなかはもちろんのこと、人との交流にも満たされます。参加された皆さんの、料理する前よりも笑顔で満足した様子を見るのが楽しみです。
久居	男性の料理教室は、大盛況で、にぎやかに楽しく活動しております。
河芸	地域のイベント開催に合わせて、手づくりのお菓子などで、おもてなしをさせていただいております。多くの方とふれ合い、地域貢献にも一役買うことができ、会員一同大変喜ばしいことだと思っています。
芸濃	いつも、地域住民の方々と、楽しく料理を作っています。メニューや健康のことなどで、笑顔で話しているときが、一番幸せです。数々のイベントにも参加し、ピンクのエプロンで元気に活動しています。
美里	地域の皆さんと楽しく料理をしながら、ふれ合いを深めています。またその中で、会員が学んだ食に関する知識をお伝えしています。
安濃	中学2年生の授業で、10年来一緒に実習しています。食育・朝食の大切さなどを話しながら、楽しい時間を過ごしています。お礼状もいただき、うれしく感じており、この活動を続けたいと思っています。
香良州	伝達講習（※）や親子料理教室などを通して、大勢で取り組む料理の楽しさ、そして食の大切さを伝えたいと、会員一同がんばっています。
一志	リーダーから講習を受けた会員が、多くの地域住民に対して、テーマに沿った料理を啓発しています。料理づくりに楽しく参加された皆さんが、各家庭での食事づくりに活かしています。
白山	月1回高齢者の方と料理を作った後、ゲームや体操などをして1日を過ごしています。参加された方が、ご自身で料理を作っていただけるようになって喜んでもらっており、お互いが楽しい1日です。
美杉	伝達講習（※）やシニア料理など、婦人会や老人会の方々とともに、料理をしながら楽しく活動しています。



父親を楽しもう!!

私は津市丸之内の津新町通り商店街で「ラーメンいたろう」を経営しています。

小学2年の女の子と、幼稚園年中の男の子の父親でもあります。

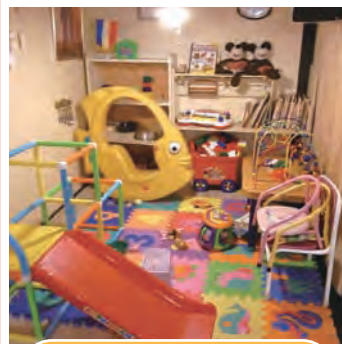


〇キッズスペースのあるラーメン屋〇

自分達が親の立場で、こんなスペースがあったらいいと思うキッズコーナーを設けてあります。

とかく、個人のラーメン屋は子連れで行きにくいものです。

でも、小さいお子様連れでも気兼ねなくゆっくり食事をしていただきたいとの思いで木製キッチンやビーズコースター、絵本などを置いています。



キッズスペース



息子が書いた絵をTシャツに!! 撮影: 恵

〇育児をたのしもう〇

私は仕事柄、買い出しのついでに夫婦一緒に幼稚園の送り迎えとか、積極的に育児に参加しています。

もっともそれは、参加しよう!と意気込んでしていることではなくあたりまえになっているんですが(笑)

子どもの成長は本当に著しく、思わぬ気遣いができるようになっていたり、前はできなかった遊びができていたりと驚かされることもしばしば。

今から、子育てにお父さんとしてかかわっていけば、親子関係のきずなも将来に繋がるのではと思います。

「育児は育自」とよく言うけれど、子育てに関わりながら自分も育てられているんだ、と。

〇これから〇

子どもが大きくなるにつれて、育児への参加方法もだんだんかわっていくと思うんです。

最初は赤ちゃんでおむつ替えからはじまるけれど、今ではプロレスごっこになったり、自転車の練習だったり...

子どもと遊ぶだけでなく、ママの息抜きに協力したりと家族と過ごす時間を愉しむ。これが一番の父親を楽しむってことかな、と。なんせ人生は一回きりですからね。

いたろう マスターでした。

〇お仕事一番、家族も一番〇

お店のブログでも公言していますが、持論として「仕事の充実=家庭の充実」とどちらもイーブンであると考えています。

コドモが子どもでいる時期は長い一生のうちで今だけ!と思うと、学校や園の行事にしても、「家が店だから」できない、と諦めさせたりは嫌で。

自分達も仕事を愛せなくなったら元も子もありませんよね。

定休日も「家でゆっくり身体をやすめる」事はあまりなく、「さあどこ行こう」という感じ(笑)

普段仕事に割いている時間が多い分、一緒に時間を作りたいと心がけています。

結局、特別なところへはなかなか連れて行けないのだけれど、公園であそんだりとか、ファミレスにいたりだとか、家でタコやキパーティーをしたり...

そんな他愛ない事のほうが喜ばれたりするんですよね。

津市ヘルスメイトおすすめ簡単レシピ紹介



男の人でも楽しく作ってみましょう！



野菜のオイスターソース炒め
(1人分 129kcal)

材料 (4人分)

★豚小間 (又は豚バラ)	40g
★ピーマン	2個
★黄ピーマン	1個
★たまねぎ	小1個
★にんじん	中1/2本
★なす (中)	3個
★サラダ油	大さじ1
★ごま油	大さじ1
★合わせ調味料	
☆オイスターソース (※)	大さじ2
☆しょうゆ	大さじ1/2
☆酒	大さじ1/2
☆砂糖	小さじ1

(※) オイスターソース
中華料理の調味料。
「牡蠣 (かき) 油」ともいう。

作り方



- ① 豚小間 (又は豚バラ) は、一口大に切る。
- ② ピーマンと黄ピーマンはヘタと種を取り、縦1cm幅に切る。
- ③ たまねぎは1cmのくし形に切る。
- ④ にんじんは3cmの長さのせん切りにする。
- ⑤ なすはヘタを落として縦半分に切り、さらに斜め5mm幅に切る。
- ⑥ **合わせ調味料**の材料を合わせて、よく混ぜておく。
- ⑦ フライパンを熱してサラダ油とごま油を回し入れ、強火で豚小間 (又は豚バラ) を炒め、そこになすを入れて炒める。
- ⑧ にんじん、たまねぎ、ピーマン、黄ピーマンの順に、加えながら炒めていく。
- ⑨ なすに火が通ったら、**合わせ調味料**を回し入れて、全体に手早くからめ、すぐに器に盛り付ける。

読者の窓

・『まちを元気にする男女 (なかま) たち』に、ぜひ男性の登場をお願いします。(60代男性)

という読者のご要望を受けて、今回は初の男性として、石阪督規さんにインタビューしました。
いかがでしたか？

・『男女共同参画』って、堅苦しくて難しい感じがしていました。(20代女性)

漢字ばかりで、とっつきにくいイメージですが、性別にかかわらず自立した生きやすい社会をつくっていくために、大切なキーワードですね。

★ご意見ありがとうございました

編集後記

山高しげり、石阪督規さん、津市食生活改善推進協議会の皆さん、いたろうさんなど、古今すばらしい人たちがたくさんみえることは津市にとって大きな財産です。

家族、友人、同僚など自分のまわりの人たちの立場や思いを想像し、少しでも受け入れようという気持ちで接することで、皆が生きやすい社会への第一歩になるのではと、私なりの身近な男女共同参画に取り組んでいくつもりです。

(高橋 礼子)

★情報やご意見、ご感想
をお待ちしています。
(あて先は下記へ)



※ 表紙の山高しげりの写真は、ドメス出版のご了解を得て、「わが幸はわが手で」より転載しました。

編集・発行／津市市民部男女共同参画室

〒514-8611 津市西丸之内 23 番 1 号 TEL: 229-3103 FAX: 229-3366 E-mail: 229-3103@city.tsu.lg.jp

編集／津市男女共同参画情報紙「つばさ」編集スタッフ：雨宮礼子・小林小代子・佐藤ゆかり・高橋礼子